

登米市内のホテルで昨年暮れ、ハンドベルグループ・フロールベルリンクターによる「心のいやしコンサート」があった。約200人が柔軟な音色に醉った。平成14年4月の結成から4年半。4回の演奏会だった。

崎誠維子さんと、迫町佐沼錦の一村香江さん。ミのベルを同時に握る方法ユージックベル仲間だは? 余韻を消すには?

結成の仕掛け人は同じ主婦2人の誘いに、何もかも分からず、誰もが「解体新書に挑んの後2度、当劇場大ホール

個を捨てて生む美音

心を潤すハンドベル

含む14人に増えた。課題を克服して練習を続け、初演奏会を乗り切った。同名の演奏会はその後2度、当劇場大ホール



登米祝祭劇場館長

山田 悅且

だ蘭学者の心境」に陥つた。全員の前に、宮崎さんが購つたオクターブ、25本のベルが並んだ。彼女らはこの時、私たちが同年末に予定した「ふだん着コンサート」への出演を快諾していた。だが、そばは問屋が卸さなかつた。ベルの鳴らしが、それは間違つた。ベルも25本増やした。専用マットや机も揃えた。メ

た。

ルの会所所属で、仙台でハンドチャイムを指導する山本信子さんを招いた。ベルも25本増やした。専用マットや机も揃えた。メ

た。まずは指導者。山形ベルの会所所属で、仙台でハンドチャイムを指導する山本信子さんを招いた。ベルも25本増やした。専用マットや机も揃えた。メ

ルで実現させた。私たちが呼びかけて昨年度に開いた、新市誕生記念「どきめき市民コンサート」でも主役を務めてもらつた。

いて言えば、演奏中に笑顔が欲しい」と話す。今後について、「音の粒をもっと揃えたい」と



第1回「ときめき市民コンサート」で、聴衆の心を和ませたフロールベルリンクターの面々=平成17年10月10日、登米祝祭劇場

△ 己が身を樂器と化せし女性らがベル振り鳴らす現忘れて

山本さんは「急成長に目を見張るばかり。強いて言えば、演奏中に笑顔が欲しい」と話す。今後について、「音の粒をもっと揃えたい」と宮崎さん。一村さんも「他人の音を引き立たせ、自分の音を引き出してもらう協力」と呼応した。ハンドベルは独奏ができない。奏でるには、全演奏者が樂器の一部になりきることが不可欠だ。「社会の縮図」にも似た特性が、独りよがりな私の胸になぜか響き渡る。